

幼児期に向けて、主体性を育む保育

社会福祉法人嬉泉 鎌田のびやか園

宮本 香、雄川 加奈子、鶴田 香

小川 聡美、坂田 朗

(子ども 若者)

1. 目的

私たち鎌田のびやか園の2歳児グループは、幼児期における主体性の育み・芽生えに繋げるため、乳児期に大切なことは何かを日々自問自答し保育にあたっている。

そのなかで私たちは、子ども達の自我が芽生え、主張が強くなる中、身近にいる保育者が子ども達の発信・表現する様々な想いを受け止め、認めていくこと、さらに子ども達の興味や関心ある事象との関わりを保障すると共に、子ども達の「こうしたい」「あーしたい」を実践し具現化することこそが、子ども達の主体性の育み・芽生えに繋がるのではないかと考えた。

今後、私たちの取り組みが幼児期の主体性の育ちにどの様な影響を与えていくのか、また保育内容をどう繋げていくのか考えることを目的とする。

2. 実践内容

- (1) 子どもの興味や関心に合わせ、遊びを提供・提案していく。
- (2) ホールと保育室内で静と動の遊びを設定し、双方の活動内容を視覚化する。また、玩具や環境を子どもが把握出来るよう明確に提示する。
- (3) 子どもの遊びを見ながら発展や展開を援助する。



3. 結果

経過として現在は、子どもたちの様子から心身の発達に応じた遊びを考えながら、日々保育内容を発展させているところだ。

結果、乳児期に保育者が子どもたちの様々な思い・表現を受け止め、共感する事で信頼関係が深まり、子どもたちが安心して発信が出来るようになってきている。保育者が子どもたちの「あーしたい」「こうしたい」を具現化させる経験の積み重ねが、主体性の芽生えとなる発信意欲や考える意欲に繋がっていると感じる。

4. 考察と今後の課題

幼児期には、仲間意識も芽生え『友だちと何がしたい』『友だちとなら何が出来る』など発想の幅が広がる事で発信する意欲も高まるのではないかと考える。

保育者は引き続き、子どもたちの発信を逃さず、興味や関心がどこにあるのか日々考え、保育内容を発展させながら様々な経験が出来るよう、形にしていく必要がある。

また、子どもたちが友だちを意識する姿が見られるよ



